



114  
A 75  
5

上



いひつゝ  
すゝめりし

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

陽の光りあふるに  
 春の空は青く  
 花の匂はほのか  
 とけりて  
 心はやすし  
 夢は sweet  
 月夜は静かに  
 思ひを  
 送るは  
 涙も  
 さびし  
 きらめく

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ

いふ







予が故の御下上  
しるす  
其の如く

所々  
①  
山  
死

井中  
井中





此流中... 方... 山... 水...  
...  
...

丙之...

...  
...  
...

三月三日... 水戸...  
水戸...

本以...  
大関...  
松山...  
本拂山...

右... 者... 其... 乃... 氏... 名... 目... 之... 記... 乃... 按... 田... 内... 外...  
...  
...  
...

汗三退年中之者... 汗三退年中之者... 汗三退年中之者...

上松孫定游外權田者... 上松孫定游外權田者... 上松孫定游外權田者...

此後... 此後... 此後...

二月... 矢名... 馬...

二月... 二月... 二月...

田... 田...

汗三退身中... 上松孫... 掃戸... 大勢... 殺... 利...

上松孫... 掃戸... 大勢... 殺... 利...

抄部... 例文

三月二

上松孫... 矢...

平... 抄部...

内... 抄部... 田...

三月... 田...

不致而中納言内務卿等及陸奥形部稻吉宿願者六日  
秋中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其而  
平人正止者所存其素石川邊乃表あり其水也其  
其も止而所趣を及柳と傳りて其天白出切未久より  
平橋とてその所柳と者其子者通れ越す中納言七の  
其年更解人表九百八金其年越す中納言子孫といひ  
第一領通可く中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
其直和老とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
布衣水海とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
柳伝とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其

二一十七

田色叶

市刻の如元

二の如元 龍巻の如元 龍巻の如元 龍巻の如元

三月十七日 内務卿孫傳麻札出く者由表上通可也

傳中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其而  
其直和老とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
布衣水海とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
柳伝とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
二の如元 龍巻の如元 龍巻の如元 龍巻の如元  
しに中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其而  
柳伝柳伝とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
其直和老とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
布衣水海とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其  
柳伝とて中納言孫傳麻札出く者由表上通可也然其

坊田市色叶



右の自然の令と之席の多き事と結知は此の原の教也

川崎の若

薩石

品川の下大橋也

関の陽役の居申

清光代々の後方より程の多き此程は大要の事は沙路甚極の  
處を以て江戸の御本所と申す候へども此の御本所は御代々御  
多々御代々の御本所と申す候へども此の御本所は御代々御  
此の御本所は御代々御本所と申す候へども此の御本所は御代々御  
此の御本所は御代々御本所と申す候へども此の御本所は御代々御  
此の御本所は御代々御本所と申す候へども此の御本所は御代々御

寺洞の上

三ノノ

沙月洞

松平相模孫傳家書が 公途の上何事字

- 一 物夕料は如何に仕式を以て亦酒室より心す哉
- 一 寺洞の上西門一汁一茶酒を以て申す
- 一 多事如粉室より心す
- 一 寺洞の上西門一汁一茶酒を以て申す
- 一 寺洞の上西門一汁一茶酒を以て申す
- 一 物夕料は如何に仕式を以て亦酒室より心す哉
- 一 寺洞の上西門一汁一茶酒を以て申す

一 瘡流しきり、女何の仕式

汚濁れき面物神とく候る

一 火の地老と印別物おとすのり式

汚濁れき面物神とく候るのり式

一 髪結ぶ中巾着、取束と若お別後、式右身使右用

汚濁れき面物神とく候るのり式

一 毛扱字とら、お流のり式

一 料紙破置字とくおのり式

一 楊梅おとす候、若く、お流のり式

汚濁れき面物神とく候るのり式

一 清水好と印、お流のり式

汚濁れき面物神とく候るのり式

一 爪先おとす候、お流のり式

汚濁れき面物神とく候るのり式

一 衣を扱字とら、お流のり式

汚濁れき面物神とく候るのり式

右と通す向の上

松子桐松月  
海神十と海

三つりり

一 汚濁れき面物神とく候るのり式  
後、おとす候、お流のり式  
同、おとす候、お流のり式

河津社其面通其乃其南以方以一人富其在河津之園  
其通一其乃其死

一 河津社其面通其乃其死

一 大七社入其領海其乃其死

一 石白河其乃其死

一 時別其乃其死

一 大七社其乃其死

右通寺何の上

三月九日

松平頼朝  
河津社其乃其死

三月三日織田孫兵衛其乃其死

一 一代河川其乃其死  
其人其乃其死  
其乃其死

織田其乃其死

其乃其死  
其乃其死  
其乃其死



あすけり流信者能とてし服者乃て是官守以流信の  
懐中より事ありき

之合年一以日中二信とある所を鼻鼻台に定て実状を  
し思ふ可相中より事なり流信の事なり非流信の事なり  
若相し内水屋新創長表三布三文字流信とてし流信の  
言事あり懐中より事ありし例に類して刀より事あり  
流信の長和流信とてし服者長弁とてし流信平弁

去遠原流信の事なり流信の事なり

同日凡の事あり流信の事なり

年一以流信の事あり流信の事なり切初流信の事あり白布流  
信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり

流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり

二月十日 別庄孫子流信の事なり

流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり  
流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり流信の事あり





Handwritten text in vertical columns, likely a list or account, written in cursive Japanese calligraphy (sōsho). The text is contained within a rectangular border.

Handwritten text in vertical columns, located below the main text block, possibly serving as a signature or a note.